

## 理事長就任時の学会を振り返って～新しい学会への活動・組織改変を求めて～ (1994年4月～2000年3月 学会大会：第24回～29回)

第6代理事長（現会長） 鈴木秀雄（関東学院大学人間環境学部人間発達学科教授、Ph.D.）

日本レクリエーション学会から日本レジャー・レクリエーション学会（JSLRS）への名称変更（1991年）に積極的に関わり、また、学会機関誌第32号『日本レジャー・レクリエーション学会の歩み』（1995年9月20日発行）の発刊準備とともに、第25回学会大会を記念大会（於：関東学院大学）として開催することが決定した状況での理事長就任であった。

前号の『歩み』（第32号）の歴代理事長による「理事長就任時の学会を考える」の振り返りでは、当時、現職理事長としては就任1年目であることから、主に、1）学会が抱える諸課題と、2）課題解決に対する対応、について述べた。結果的に3期6年間にわたる理事長職にあって、抱えた諸課題は、①会員の獲得・会員数の拡大、②研究活動と実践研究（活動）の融合及び活性化、③事務局機能の強化とともに学会役員の民主的な選出方法の確立であった。

活動、組織機能の改変がその対応策として求められたことは言うまでもない。当時の状況からの対応策としては、第25回学会記念大会を期に研究発表と実践研究（活動）を実現し、研究者と実践家との相互交流の活性化を試みた。また、市民活動への影響力を増していく視点からは、学会大会開催会場周辺地域の市民参加を促すことも試みた。

学会員数500名の実質化をかけた、その数値に近い会員数の獲得に至り、事務局機能強化については、学会役員の非常勤講師化もはかり、複数の学会役員に対し、事務局が設置されている大学での非常勤講師としての授業担当とあわせて学会事務局業務の役割を果たしていただいた。第25回学会記念大会総会時にも役員の選出形態が活発に議論され、それを受け、学会の役員選出を民主化するために、当時、「役員候補者選考委員会」に委ねられていた役員人事を、「役員選挙規程検討委員会」の設置とともに議論を重ね、平成8年11月に開催された第26回学会大会（於：奈良女子大学）総会時に提案された「日本レジャー・レクリエーション学会役員選出細則」が承認され、役員選出細則の設置趣旨に基づき、選挙規程に関わる学会会則等の諸関連規程が改正（整備）され、平成10年度期の役員選出から、民主的な選挙による現行規程の学会役員選出方法がとられている。

学会の財政面については、企業協賛・広告や役員負担による依存体質からの脱却を図る意味から、事務局の効率化もさることながら、学会員への負担も求め年会費の値上げ（年額5,000円から現行の年額8,000円）も実施した。

時代の要請から、有効かつ広汎な広報手段の確立や、更なる事務局の活性化と効率化、会員数の増強などは引き続き解決しなければならない課題でもある。理事長就任時には、学会の独自性の確立や活性化を図るには如何すべきかに中心課題がおかれていたが、今後については、レジャー・レクリエーション領域の広汎さと、高等教育におけるレジャー・レクリエーションの専門家教育のシステム化（実体化）がなされていない現状をどう学会は受け止め、そのことにどう対応すべきかについて積極的な議論を学会としても進めていく必要がある。

最後に理事長就任時に、方針として打ち出した学会大会の大学での開催については、現在まで、各学会大会が会員の力強い活動により、当該学会大会開催会場となる各大学のご協力を得て、それぞれ大学を開催会場として学会大会が安定的に開催され続けていることを関係会員の皆さんに感謝の念を持ってお礼を述べたい。